

IUHW

The gazette of the International University of Health and Welfare

第25号

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線7127



第1回卒業式挙行政

3月19日、本学の第1回卒業式が挙行政されました。第1期生として式に臨んだ卒業生479名と保護者、渡辺文雄榎木果知事をはじめ来賓など約1,200人が出席しました。総代の泉智子さん(言語)への卒業証書授与に続いて、高野綾さん(看護)、鎌倉聡さん(理学)、林由美子さん(作業)、緒方悦子さん(言語)、海野達也さん(放・情)の各学科成績優秀者に学長賞、先天的に筋力の弱い病気を持ちながら努力を続け、この日卒業式を迎えた青木山貴さん(放・情)に学長特別表彰が贈られました。その後、卒業生を代表し泉さんより「今後は常に自分を磨き、責任を持った人生を送ることを誓います」と謝辞がありました。最後に、卒業記念品贈呈の目録が吐師秀典さん(看護)より、学長に手渡されました。

学長より

新学期を迎えて



学長大谷藤郎
新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

今年は学部7学科だけでなく、新設の大学院にも新入学の皆さんを迎えました。在校生の皆さんと共に心から歓迎いたします。

雪の那須連山を望むこの那須野が原、西行も芭蕉もめでたこの地に住んでびっくりしますのは、冬は厳しく春の訪れは遅いが、時が至れば校内の桜だけでなく、野に森に山にさまざまな樹々草々が若緑色に芽吹き、赤、黄と一斉に花開かせる見事さです。

勉強だけでなく名所旧跡も訪ねたいものです。

出来事

平成11年度 入学式

4月6日、平成11年度入学式が行われました。今年度から開設された大学院の初めての入学式もこの日に行われました。

大学入学式には2学部7学科823名をはじめ、保護者や千保一夫大田原市長、渡辺喜美衆議院議員などの来賓合わせて約1,700人が出席しました。新入生を代表して理学療法学科の久保順一さんが「これからの4年間、学業に専念すると共に、サークル活動、ボランティア活動などに積極的に参加したい」と誓いの言葉を述べました。

午後4時から行われた大学院の入学式では、一期生42名が入学しました。式では初山泰弘大学院長が「幅広い専門職となり、この二年間でオリジナリティーのある研究に取り組んでもらいたい」と式辞を述べました。



県北初、重症心身障害児施設などの起工式実施される
栃木県北初となる重症心身障害児施設と、日常的に介護が必要な身体障害者を対象とする身体障害者療養施設、身体障害者デイサービスセンターの3つの施設が取められた建物の起工式が3月17日、キャンパス内の建設予定地で行われました。起工式には千保一夫大田原市長をはじめ関係者約60人が参加し、工事の安全を願いました。これらの施設では、本学の教員による医療、介護、福祉の各分野での先駆的な実践の場として、また学生の実習の場としての活用も期待されています。開設は来年2月となります。

川口恭子講師に大山激励賞の名誉

看護学科、川口恭子講師は、3月10日霞が関ビル東海クラブで行われた平成10年度(第25回)大山健康財団賞・大山激励賞および学術研究助成金贈呈式で、大山激励賞を受賞しました。



同賞は、川口講師が1983年以来10年間にわたって、バングラディッシュ南部農村地区でヒューマン・ディベロップメント・プログラムとして、結核対策・母子保健栄養問題に取り組まれた活動を評価して贈られたもので、保健婦としてただ一人の名誉ある賞です。

贈呈式に出席した大谷学長は「国際医療福祉大学の誇り」と祝辞を述べました。

国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」設立

同窓会「マロニエ会」事務局

本学の第1回卒業式が3月19日に举行され、479名の学生が卒業しました。医療や福祉という専門分野の最先端で働く卒業生の中には、同様な職種で働く仲間や、大学とのつながりを今後とも強く持ちたいと考える人が多いと思います。そこで大学と卒業生のパイプ役として看護学科の吐師秀典さんをはじめとする各学科の代表者の尽力により、この度国際医療福祉大学同窓会「マロニエ会」が設立されました。当面事務局は大学事務局内に置かれますが、事務局では長く同窓会会員に愛される運営を行いたいと思っています。

(尚、卒業生・教職員の皆様には、5月中旬頃同窓会入会のご案内を送付いたします。)

ホームヘルパー養成

医療福祉学科

介護保険制度の実施をひかえて在宅福祉サービスのマンパワーの確保、特にホームヘルパーの確保が重要な課題になっています。そこで本学は、栃木県庁が大田原市に委託したホームヘルパー3級の養成を看護学科と医療福祉学科共同で2月に受託開催しました。大学での講義と実技指導7日間、現場2日間の講習で60名が受講。参加者は、目を輝かせて熱心に受講し「勉強がこんなに楽しいものと思わなかった」と喜んでいただけました。

11年度は、5月から7月にかけて2級の養成（講義と実技指導20日間、現場実習5日間）、来年2月に3級養成の第二回を実施します。この養成を通して大学が地域に少しでも貢献できればと考えています。

（鈴木五郎）

遠隔リハ教育プログラムの送信

平成11年3月31日に、「リハビリテーション医療とチームワーク」のテーマで第5回目の中国への教育プログラムの送信を実施しました。具体的内容はリハビリテーション医療の体制、チームの機能、症例検討会の実際、チームワークに問題のある事例などを組み入れたものです。今回は、これまでの送信内容に比較してより多くのパワーポイントを利用すること、双方向での質疑応答、意見交換を想定した会議を試みることを実験的に試みました。しかしながら、実際は通訳を介した事前準備なしの質疑応答、意見交換は抽象的な題材であればあるほどお互いの理解が難しいことが判明しました。次回は6月10日「下腿切断の理学療法」で研究フェローの藤沢しげ子助教授が企画責任者で送信を行う予定です。（杉原素子）

途上国における医療協力（放射線分野）の課題



海外研修で医学生と共にフィリピンへ行く機会を与えられました。マニラのフィリピン総合病院（PGH）の放射線部門は、国立の総合病院だけあって2検出型SPECT、ヘリカルCTなどもあり、画像診断装置が充実しています。逆に地方に行くと、無医村が多く、町

村レベルの保健センターにある歯科でさえ床屋なみの設備でX線撮影装置もなく、抜歯のみ行う状態で両者の設備の違いに驚きを覚えました。貧しい患者さんは、医療費が無料であるため、医療費の高騰を招くX線検査はできるだけ少なくし、また、装置自体が高価なため、X線装置が大病院に集中して地方にX線装置が行き渡らないのかもしれませんが。

途上国でもX線装置を使ってもらうためには機材供与、技術供与ばかりでなく、装置も含めてX線検査を安価に行うための研究が必要だと痛感しました。

（放射線・情報科学科 4年 天川一利）

「ミス・マロニエ」に本学学生が参加

平成11年度のミス・マロニエ任命式が4月6日栃木県庁で行われ、236人の応募者の中から選ばれた6人が任命書を受け取りました。その中に大関美保さん（看護4年）も選ばれ、「多くの人との出会いの中で自己を見つめ、成長させたい」とミス・マロニエの仕事に期待をしています。

ミス・マロニエの6人は今後県内25市町村27会場で行われる苗木配付会へ参加する他、緑化を推進するための緑の基金の呼びかけ等も行う予定です。

98年サークル活動報告

事務局に報告のあったサークル活動の一部を紹介します。

◆バドミントン部

大田原市民大会

男子B 3位 男子C 優勝

女子C 3位

銀持杯大田原市大会

男子A 準優勝 男子B 3位

◆熱気球部

第3回羽生バルーンフェスティバル 4位

◆空手道部

第25回県空手道協会県大会

男子型の部 ベスト8

男子組み手の部 ベスト8

◆少林寺拳法部

関東学生大会 出場

北関東学生大会 2位

県大会

女子初段 1位

男子初段 1位（全国大会へ）

男子初段 2位

女子初段 4位 男子初段 4位

◆弓道部

宇都宮弓道大会 総合10位

関東学生秋季リーグ戦 3部2勝1敗（2部昇格）

全国大学選手権関東地区予選会 2位

- ◆ダンス部
産業文化祭 2回公演
- ◆軽音楽部
宇都宮アマチュアバンド予選 パルコ賞
- ◆卓球部
県北選手権 男子シングル6位
栃木県卓球リーグ 2部A3位
- ◆ハンドベル部
関東ハンドベルフェスティバル参加
西那須野町音楽祭参加
- ◆テニス部
県北クラブ対抗 男子4位・8位
県北シングルス 男子2位・8位
- ◆バレーボール部
春季関東リーグ 12部5位
秋季関東リーグ 12部2位(11部昇格)
大田原市選手権 3位
- ◆サッカー部
県大学リーグ 出場

お知らせ

図書館の利用について

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活をより多岐のものにするために大学図書館をご利用ください。但し、図書館内での喫煙や飲食は禁止です。飲食物の持ち込みも禁止です。館内では私語を

慎み、まわりの迷惑にならないようにしてください。この度、「図書館案内」を改訂いたしました。学生は3冊まで1週間となりましたので、注意してください。大学院生、卒業生についても規定しました。雑誌の貸出・利用手続・蔵書検索操作方法についての説明も加えましたので、よく読んでください。(図書館)

委員会だより

◇国際部

○JICA/ケニア医療訓練カレッジ・プロジェクト
〔研修員の受け入れ〕Mr Kiwinda MWANDIMEが情報管理研修で3月8日-4月28日、Mr David BWONYAが教材制作・放射線技術研修で3月15日-4月28日、Ms Mueni MUENDOが看護研修で3月30-31日、来学されました。

〔調査団参加〕国際部・長谷川がJICAのプロジェクト運営指導調査団・団員として3月6日-16日ケニアに出張しました。

〔チームリーダーの交代〕山崎統四郎教授が3月末帰国され、大沢伸孝・国際部教授が赴任されました。

○中国リハビリテーション研究センター・魯哲さんの研修終了

「通信衛星プロジェクト」で研修を受けていた魯哲さんが研修を終了、4月2日帰国されました。

(長谷川豊)

保健学部カリキュラムの改編について

保健学部では、平成11年4月の完成年次を迎え、これまでの教育課程の見直し作業を約1年間かけて行い、平成11年4月からの実施に間に合わせる事ができました。現行の教育課程は、平成7年度の開校に先立ち十分な検討を通して作成されたものですが、年次の進行に伴いいくつかの問題とそれらへの対応の必要性が生じてきたため、教務委員会内にカリキュラム検討小委員会を設置し、今年度の実施に至りました。新カリキュラムの該当学年は平成11年度入学の5回生からで、したがって新カリキュラムとこれまでの旧カリキュラムが今後3年間並行して実施されることになります。現行カリキュラムの具体的な問題等については紙面の都合上、ここでは詳しく触れることはできませんが、改編のねらいと、基本的な方針は以下の通りです。詳細は年報にて提示します。

(1) 改編のねらい

- ①ゆとりある教育
- ②教育理念の具現する教育
- ③医療福祉系総合大学として特性ある教育

(2) 基本的な方針・考え方

- ①ゆとりある教育
 - * 専門教育における必修のしばりを緩和する。
 - * 総合教育科目、外国語科目、国際系科目、保健体育科目の必修のしばりを緩和する。
 - * 保健学部各学科教育課程指定規則大綱化の動きに合わせ、時間数のしばりを緩和する。
 - * 学科専門科目を他学科学生が履修でき、かつ卒業要件単位に含まれるようにする。

②教育理念の具現化(教養を豊かにする)

- * 豊かな教養を目指し、総合教育科目の内容及び科目数を増し、選択の幅を広げる。
- * 専門教育科目においても、専門性、学際性、国際性を考慮する。
- * 外国語教育の選択の幅を広げるとともに、より高度な語学教育を組み入れる。
- * 海外ボランティア体験を科目として組み入れる(今年度は来年度実施のための検討)
- * 「総合講義」として、人間の認識や行動等についての基本的なテーマを専門分野が異なる複数教員による科目として開講する(後期開講予定)。
- * 専門教育科目において、選択科目を増やす。

③本学の独自性・特性(医療福祉系総合大学としての特性)

- * 保健学部共通科目を設け、学科を超えて共に学ぶ体制を作る。
- * 保健学部共通科目に、関連職連携論、ケアマネジメント等の専門技術連携に関する科目を設ける。
- * 上記科目を通して専門職としての教員の交流、専門技術の交流を図る。

(3) その他

- * 大学院教育と学部教育の有機的な連携を視野に入れたカリキュラム
- * 聴講生・科目履修生を積極的受け入れるためのカリキュラム

(教務委員会内・カリキュラム検討小委員会:杉原素子)

◇FD小委員会

平成10年度の教員研修会を2月25日(木)に開催しました。委員会は8回開き、準備にあたりました。テーマは「授業評価と授業改善」とし、授業評価の研究者で実践も重ねられているメディア教育開発センター教授の大塚雄作先生に基調講演をお願いしました。当日は教員約80名の参加があり、午後は約10名ずつの分科会で意見の交換をし、大塚先生にも加わっていただきました。授業評価に関しては各教員のとらえ方もまちまちで、改善にどのように結びつけるのかこれからの課題ですが、前後2回のアンケートからも各教員の関心の高さがうかがえました。目下報告書作成中です。

平成10年度委員：

宮尾洋子(長・語学) 矢谷令子(副・作業)
川口恭子(看護) 潮見泰蔵(理学)
飯塚直美(言語) 牧野元治(放射)
齋藤詔(福祉) 矢野聡(経営)
小林春雄(医学) 菊地義信(情報)
江草浩幸(総合) 磯寿人・桑原英晴(事務局)
(宮尾洋子)

◇紀要委員会

第9回紀要委員会を12月22日(火)、第10回を1月19日(火)、第11回を2月16日(火)にそれぞれ開催いたしました。紀要第3巻の編集作業は終了し、同時に紀要発送先リストの見直しを行いまして紀要第3巻の発送先を確定いたしました。

紀要第4巻の編集については既にご報告のとおり、多数の投稿希望回答が寄せられ、順調な編集を予想しておりますが、未だ何人かの執筆者の玉稿が未着とな

っております。原稿締切日も過ぎておりますので、脱稿に向けての一層のご努力をお願いいたします。投稿規程は本学紀要の最終ページをご参照下さい。

(野原功全)

◇国際交流委員会

(1)国際保健協力フィールドワーク・フェローシップに各学科と当委員会の推薦を受け、国内研修(3月4・5日)に田崎智美(看護1年)、長谷川真人(理学2年)、前田公子(作業1年)、紺野千津恵(言語2年)、手塚洋一(放・情1年)、若林珠代(経営2年)、小堀福子(福祉2年)、国内・海外研修(3月6日-14日)に天川一利(放・情3年)の皆さんが参加し、実り多い研修ができたようです。海外研修については天川君の報告(P.3)をお読み下さい。

(2)JICA-ケニアKMTCプロジェクトにて研修員2名が来学し、学内視察、研修等に協力しています。

(田中美子)

◇ボランティア委員会

4/8 新2年生にアンケート実施

4月8日、学期初めの新2年生へのオリエンテーションの時に、7学科共通の「ボランティア・アンケート」を実施いたしました。

学内におけるボランティア活動の実態を把握する目的ではじめて実施するものです。このアンケートを基礎にボランティア委員会としての支援策の検討を行います。結果は、掲示板その他の方法で広報します。

(鈴木五郎)

「臨床実習における倫理綱領」について

平成11年度の学習の手引の最終頁に「臨床実習における倫理綱領」が載せられてあるのに気がつきませんか。本大学は教育課程において全学科に臨床実習が必修科目として位置付けられています。すなわち、全学科とも保健医療福祉関係のさまざまな施設での実践技術の学習が必要とされています。各学科は、臨床実習の手引を作成し、臨床実習に伴う多くの問題への対処方法を指導していますが、保健医療福祉領域の専門職を育成する本学は、本学として、学生が臨床実習に臨む際の、倫理的な心構えを以下のように作成しました。臨床実習に臨む際、学生は必ず以下のことを守るよう

1. 実習学生は、臨床実習において専門職の知識と技術の習得に努める。
2. 実習学生は、実習指導者の指導の下に実習を行う。

3. 実習学生は、専門職の役割および責任を認識し、適切に行動する。
4. 実習学生は、臨床実習施設における規則を厳守する。
5. 実習学生は、実習指導者および他の職員に対して常に謙虚な態度で接し、協調を図る。
6. 実習学生は、利用者(本人・家族)を人として尊重する。
7. 実習学生は、利用者(本人・家族)に関して守秘義務を厳守する。
8. 実習学生は、利用者(本人・家族)との関係において、実習生としての立場を自覚し、自らを律する。

(教務委員会内・臨床教育小委員会：杉原素子)

学科センターだより

◇看護学科

出会いの季節

記念すべき今春看護学科卒業生113名は当大学の誇りを胸に社会にスタート、その内県内就職31名と多数であり心強い限りです。実習先での本学初の卒業生達との関わりは先輩後輩の強い絆で結ばれ実習場も従来とは異なる空気が漂うことでしょう。ピッカピッカの新入生を迎え、学内も一段と活気に満ちています。皆様のご入学を心から祝福いたします。2年生は5月からの看護実習に期待と不安の複雑な心境。3年生は後期開始の臨床看護実習の配置が気掛かり。4年生は最高学年。今から国試に向け頑張らしましょう。

(齋藤忠子)

◇理学療法学科

5回目の新入生をお迎えして

3月に初めての卒業生を教員一同でお送りし、惜別の思いの1ヶ月でした。卒業式、謝恩会と盛り沢山の行事も滞ることなく無事終了しました。ようやく理学療法学科も落ちつきを取り戻しつつあります。そして、4月からは、また新たに新入生をお迎えいたします。歓迎会をはじめ、前年同様に行事も盛り沢山で、より充実した大学生活を過ごせるよう、全力でお迎えする準備はできております。そして4年後には学生一人一人が「充実した大学生活だった」と思い起こせるよう努力していきます。

(金子純一朗)

◇作業療法学科

春休み終了。新入生ようこそ!

新入生諸君、入学おめでとう! 雨垂石を穿つ。

新2年生。基礎実習で見学した作業療法士の現場はいかがでしたか? 百聞は一見に如かず。

新3年生。3月の評価実習で検査・測定 of 技術を習得・実践しその解釈が理解できる様になりましたか? 切れぬ薬刀火の出ぬ火打にはなりませんように。

新4年生。2月の課題実習において身体障害・発達障害・精神障害・老年期障害それぞれの領域で作業療法評価から作業療法計画立案までを行いました。次の症例研究までに知識・技術の整理を。(濱口豊太)

◇言語聴覚障害学科

4月から従沼澄子教授が大学院の専攻主任になられ、伊藤が学科の運営を担当することになりました。また、新たに今井智子助教授(発声発語障害Ⅰ他担当)、西尾正輝講師(発声発語障害Ⅱ他担当)、岩本容武講師(耳鼻咽喉科学他担当)、菅野倫子助手、武智司尾子助手、矢崎真一助手(国際医療福祉病院派遣)の6

名が学科のスタッフに加わりました。なお、植田恵助手が講師に昇格しました。

新しい布陣で、「ゆとり」をキーワードに、よりきめ細かな学生指導を行うとともに、卒後教育システムの確立、研究活動の活発化、就職指導・国家試験対策体制の強化などをはかりたいと考えております。従前通りのご支援、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

(伊藤元信)

◇放射線・情報科学科

1999年3月19日(金)、本学体育館において第1回卒業式が行われ、放射線・情報科学科では99名が晴れて第1回卒業生となりました。4年間の学生生活は知識、技術の修得はもちろんのこと、人間形成のための貴重な年月でした。人生の旅立ちの旅のバッグには診療放射線に関する知識と技術がぎっしりと詰め込まれていました。このバッグから知恵を引き出して、日本の医療を支え育てていって頂きたいと思っております。

4月6日(火)の入学式では平成11年度の新入生128名を迎えました。男子76名、女子52名です。学科の学生、教員ともども入学を心から祝福いたします。

(野原功全)

◇医療経営管理学科

2年次医療施設基礎実習無事終了。

2年次目を迎えた本学科では、去る2月15日から1週間、医療施設基礎実習Ⅱをはじめに行いました。

1日目は栃木県内の11か所の老人保健施設で事務長その他のスタッフから講義を受け、施設見学をしました。2日目は全員東京へ向かい、厚生省のキャリア官僚による保健医療・社会保障行政の現状についての講義を受けました。3日目は栃木県庁で保健福祉部各課による県行政の現状についての講義を受けました。

学生には2年間の勉学の総決算と、現実の施策を肌で感じられ、刺激になったようです。(矢野 聡)

◇医療福祉学科

さあ、3年目の医療福祉学科が始まった。

春です。4月です。医療福祉学科も開設3年目に入りました。1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学式、オリエンテーション、授業開始とあわただしく、まだ不安と緊張の日々を送っているところでしょうか。はやく友達をたくさん作って、楽しい大学生活を過ごして下さいね。

2年生と3年生の皆さんは、あっという間に進級したと感じている頃でしょうか。2年生は、少数の「ゼミⅠ」が始まりましたね。授業内容も一層専門的になります。関心をもって、勉強、勉強。3年生は、いよいよ実習が始まります。健康に気をつけて、心も体も頭も準備万端に。(本多 勇)

◇医学教育センター

—医学教育について考えること— その5、研究—1

医学教育センターに所属する教員の第一の使命は学生の教育にあることは言うまでもありません。この大学も開学から4年を経て完成年次を迎え、教育と並んで大学の重要な使命である研究についても考えなければならぬ時代に入ったのではないのでしょうか。教育を支える意味の役割が第一にあげられますが、また若い教育・研究者を養成するためには基礎研究が是非必要と思われれます。今年度から大学院が発足して研究者の卵の養成が開始されます。この意味でも研究推進に向けての積極的な姿勢が求められます。(都築正和)

◇語学教育センター

新1年生は語学教育も新Curriculumでスタート

3月には第1期卒業生を見送りました。これから世界のあちこちで活躍してくれることでしょうか。大きく育てて欲しいと英語の「苗木」を渡したつもりです。この「苗木」を枯らさないで、それぞれがきつとそれなりの花を咲かせてくれることと期待しています。そして4月からは新1年生には語学のCurriculumも新しい「夢」を盛り込んでスタートです。外国語に意欲的な学生には他言語のコースを含めて、選択幅の広い内容になりました。伝達の手段としての語学だけではなく、異文化理解・教養としても学んで欲しいものです。(南井紀子)

◇言語聴覚センター

言語聴覚センターはこの3月で開所から2年が経過しました。受診者は700名を突破し、近隣の市町村を中心に宇都宮市等の県内各地や福島県など県外からも多くの方が受診されています。専任STは昨年7月に着任した斉藤佐和子STと言語聴覚障害学科1期卒業生の鬼越美帆STを加えて3名となりました。当センターは学生の臨床実習施設であると同時に、地域の方々の言語聴覚療法に対するご要望にお応えする開かれ

た場でもあります。より良く機能できるようスタッフ一同で日々努力をしています。(加藤 育)

教員紹介

(毎号、各学科・センターから1名ずつご紹介頂きます。)

①所属・職位②生年③出身校④専門分野⑤直前の勤め先⑥主要著書又は論文どちらか1点⑦本校における担当科目⑧趣味

郷間 悦子 (ごうま えつこ)



①看護学科・講師②1953年③日本赤十字看護大学大学院看護学研究科④地域看護・老人看護⑤自治医科大学看護短期大学⑥ホームヘルパーと訪問看護婦との日常生活行動援助の実態⑦健康保健概論Ⅱ、看護過程Ⅲ、Ⅵ⑧ウォーキング・読書

今井 智子 (いまい さとこ)



①言語聴覚障害学科・助教授③埼玉大学教養学部④構音障害全般⑤昭和大学歯学部第一口蓋外科⑥Articulatory Function after Resection of the Tongue and Floor of the Mouth: Palatometric and Perceptual Evaluation⑦発声発語障害学⑧これから那須でやりたいこと：ドライブ、ハイキング、温泉めぐり、美術館めぐりetc

第12回IUHWクイズ当選者発表

今回のクイズは難しかったでしょうか？多数応募者がありましたが、正解率は約25%でした。厳正な抽選により野上義明さん(経営2年)がIUHWクイズ第12弾の当選者に決定しました。正解は以下の通りです。ご協力ありがとうございました。

正 解

問1. ②

問2. ②

問1. 民法で「善意の第三者」という場合の善意とは次のどれか？

- ①故意がないこと
- ②ある事実を知らないこと
- ③過失がないこと

問2. 次の公害病とその原因物質の組み合わせで、誤っているのはどれか？

- ①スモン病—キノホルム
- ②濃良瀨川鉍害—すず
- ③イタイイタイ病—カドミウム

田村 誠 (たむら まこと)



①医療経営管理学科・助教授②1959年1月24日③東京大学大学院医学系研究科(保健学)、ノースウェスタン大学経営大学院④医療制度・政策⑤東京大学大学院医学系研究科・健康社会学⑥「マネージドケアと米国医療の変容」

(「病院」での連載)⑦保健医療社会学⑧読書、ウインドサーフィン(ボードは最近ほこりをかぶっていますが)

西口 守 (にしぐち まもる)



①医療福祉学科・講師②1956年③日本社会事業大学大学院社会福祉学研究所修士課程④高齢者ソーシャルワーク(特に入所施設でのソーシャルワークについて)⑤上智社会福祉専門学校⑥老人福祉論(メヂカルフレンド社)⑦

社会福祉援助技術各論Ⅰ他⑧歩くこと、泳ぐこと、寝ること、飲むこと

編集後記

開学の年(平成7年)の6月に創刊号をお届けしてから、4年間、ほぼ2か月に1回の頻度で発行してまいりました「IUHW」も、本号で25号となりました。「正確な情報をタイムリーに」をモットーに、同じスタイルを踏襲しつつ、少しずつ工夫を加えて編集してきました。今年度は新しい体制でさらに魅力ある学報作りを目指します。どうぞよろしくお願ひ致します。(伊藤元信)

IUHWクイズ ー第13弾ー

解答番号を記入して事務局窓口外側のメールボックスへ投入するだけ。全問正解者の中から抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、〆切は5月14日です。

キリトル		
学科	_____	キリトル
学年	_____	
名前	_____	キリトル
解答		
問1.	_____	キリトル
問2.	_____	キリトル
問3.	_____	キリトル

リレーエッセイ

「紅茶?それともコーヒー?」
「どっちでも」

語学教育センター 宮尾 洋子

スイスに住む友人が日本に里帰りしてほっとするのは「紅茶かコーヒーか」と聞かれて「どっちでも」と答える時だという。喫茶店やレストランでの話ではない。家族や友人達とお茶の時、日本では自分の好みよりも周囲の意向に合わせるが多い。お茶を供する人の手間を省くという心配りも働く。この友人はスイス人の夫に自分の希望をはっきりと素早く答えよと叱られるそうだ。この「どっちでもよい」というグレイゾーンは日本人の社会生活の底流となっていて様々の意味合いを持ち、時には人間関係の潤滑油の働きもするが、異文化から見れば曖昧模糊として訳の分からぬ日本人と言われる。明暗、光と闇を峻別する文化圏の人々に谷崎潤一郎の「陰翳禮讃」はどの程度理解してもらえるだろうか。このグレイゾーンの存在は日本文化の深さや洗練度を示すとも言えるが、一方国際化による文化の交流・混在・多様化が益々進む新世紀を生き抜くには日本人も幼少から自分で考え、自分の主張を自分の言葉で表現し、その答えに責任を持つという訓練が必要である。個人の責任が問われ、「どっちでも」、「なんとなく」というようなグレイゾーンに寄り掛かったコミュニケーションでは生きてゆけぬ時代が迫って来ていると思うが如何?

次回執筆者:齋藤 謁先生(医療福祉学科)

賞品はなんと旅行ギフト券(8,000円分)ノ

問1. 今年度本学には大学・大学院合わせて865人の学生が入学しました。そこで、出身都道府県別ランキングを調べてみました。人数の多い順に並んでいる組み合わせはどれだと思いますか??

- ①栃木県、東京都、埼玉県
 - ②栃木県、茨城県、群馬県
 - ③栃木県、福島県、茨城県
- (左より1位、2位、3位)

問2. 栃木県と境を接している県は福島県、茨城県、群馬県など4県あります。そこでもう1つ境を接している県はどこだと思いますか?

- ①新潟県 ②埼玉県 ③千葉県

問3. 栃木県北部に位置する大田原市。栃木県内には大田原より北に位置する市町村がいくつかあります。栃木県内で一番最北端の市町村はどこだと思いますか?

- ①黒磯市 ②那須町 ③栗山村